

G 3 部 会 の 研 究

主 題

基礎・基本の習得を図るための指導法の改善

1 育てたい力

関心・意欲・態度	数学的思考
- 算数の楽しさやよさを感じながら、進んで学習に取り組むことができる。 - 既習事項を日常生活の課題解決に役立てることができる。	- 日常生活の事象と関連づけて考えることができる。 - 図や絵を用いて解決方法をイメージすることができる。 - 具体物や絵図を使って自分の考えを表現したり発表したりすることができる。
表現・処理	知識・理解
- 計算、作図、測定、表やグラフ化などの作業が丁寧にできる。 - 基礎的な問題を正確に処理することができる。 - 既習事項を生かして、問題を解くことができる。	- 数量や図形について豊かな感覚をもつことができる。 - 意味や性質について正しく理解することができる。 - 学習事項を習得することができる。

2 主題に迫る手だて

(1) 指導計画の工夫

①グループの実態に応じた指導計画の作成

- 基礎・基本の習得に重点をおき、内容を精選して指導計画を作成する。

②学び直しの時間の設定

- 基礎的な内容を反復練習したり、振り返ったりする時間を指導計画の中に盛り込む。

(2) 指導方法及び指導過程の工夫

①復習の時間の設定

- 授業の始めに前時までの既習事項を復習し、本時の学習活動に対してスムーズに取り組めるようにする。

②課題提示の工夫

- 学習課題を実態に応じた内容や数値にし、児童がより取り組みやすいようにする。

③自力解決に導くための工夫

- 具体物や半具体物を用いた操作活動を個に応じて取り入れることにより、抽象的な内容を具体的にイメージ化させ、理解を深めさせる。
- 色分けしたり図式化したりしながらノートを取ることで、学習内容を振り返ったり自分の考えを整理したりできるようにする。

④児童の考えを生かした学び合いの工夫

- 自分なりの考えを持ち、それを説明できるようにする。
 *自分の考えが書ける。 *自分の考えが発表できる。
 *友達の考えと自分の考えが同じか違うかが分かる。

(3) 評価の工夫

①一人一人の考えや学習状況を見取るための工夫

- 机間指導を重視し、個々の児童の学習に対する取り組みの様子や理解度を把握する。また、座席表に考え方や理解度を記録することで一人一人の学習状況を見取り、個に応じた支援を行ったり学び合いを深めさせたりする。

②学びの振り返り

- 授業時間の最後に確かめの問題をしたり、ノートに一言感想を書かせたりすることで、学習の習得状況を確認する。

③学習チェックカードの活用

- 学習チェックカードに記録し累積することで、一人一人のつまづきや習得状況を把握し、指導に生かしていく。

G 3 部会 研究の成果と課題（17年度）

1 指導計画の工夫について

単元を通して、発展問題については触れる程度とし、基礎的な問題の反復学習に時間を多く取った。その結果、基礎基本が定着し、算数に対する苦手意識がだいぶ解消され、意欲的に取り組む姿が見られるようになった。

また、単元の中で学び直しの時間を多く取り、その学習の内容を細分化し、1時間の内容を限定して指導したところ、集中して取り組むことができ、学習内容が定着してきた。

しかし、復習に時間をかけると、時数が足りなくなることも考えられるので、児童の実態に合わせてどのように学習内容を精選していくかが今後の課題である。

2 指導方法及び指導過程の工夫について

授業の始めに復習の時間を入れ、前時までの既習事項を振り返ることで、それを本時の学習に生かし、学習活動をスムーズに進めることができた。

学習課題については、児童の身近な内容や数値にすることで、興味関心を喚起し取り組みやすくなった。

自力解決については、言葉などを色分けしたり、図式化したりしながらノートをしっかりまとめさせるようにしたところ、そのノートを参考にしながら、自分の考えをもてるようになってきた。

学び合いについては、教師の支援を受けながら発表することで、友達との共通点や相違点に気付くことができるようになってきた。

今後は、自力解決のための基礎的な力を着けることが課題である。

3 評価の工夫について

常時、期間巡視をすることで、一人一人の学習の取り組みの様子や理解度を把握し、個に応じた適切な支援を行うことができた。

また、振り返りカードや一言感想などで、自分の学習を振り返らせることで、定着度や意欲を見取ることができた。

今後の課題としては、学習チェックカードのより効果的な活用について検討していきたい。